

# 現代台湾における日本語彙語の受容性

杜岱玲・新居田純野

台湾大葉大学応用日本語学科

## 1. はじめに

台湾の街中の至るところで看板や広告宣伝、生活用品など常に日本語語彙が見られる。台湾では1945年までの50年間日本に統治された関係上、外来語として日本からもたらされた語彙が多かったが、その後、台湾では日本語の一般使用が制限された。

しかし、近年の日本ブームにより、再度多くの日本語語彙が入ってきて、一般の生活の中でもそれらの日本語語彙が頻繁に使われるようになった。例えば、「可愛的店」が「可愛の店」というように「的」が日本語の「の」で表現されたり、日本語の「おいしい」はそのまま発音されて、日常生活で普通に用いられている。

黄(2006:192)は、台湾語に残っている日本語語彙に対して、日本語であるという認識が薄れてきて、若い世代には日本語として意識されずに使用されているようだ述べている。

そこで、本研究では、台湾で見られる日本語語彙の特徴と、それらに対して若い世代がどのようなイメージを持っているのかについて、アンケート調査を実施し考察をおこなった。

その結果、70人の大学生の台湾でみられる日本語語彙に対するイメージは高級感や流行性を感じられるというもので、全体的によいイメージを持って受け入れられていることと、日本語だとは意識せずに、ごく自然に台湾文化に溶け込んでいて、違和感を感じていないということが明らかになった。

## 2. 台湾で見られる日本語語彙

村上(1986)は、台湾人の言語生活は複雑であるため、台湾にはいろいろな形で日本語が残っ

ていると指摘している。

### 2.1 外来語

本稿では、筆者が収集した台湾でみられる日本語語彙914語から、台湾における日本語からの外来語と考えられる100語を取り上げ、村上(1986)の分類方法をもとに、次のように分類した。

(1) 日本語の語彙をそのまま音訳したもの

「わさび」<sup>1</sup>→「哇沙米」、「かわいい」→「卡哇伊」、「せんべい」<sup>2</sup>→「仙貝」「あっさり」→「阿沙力」、「あなた」→「阿娜達」、「いちばん」→「一級棒」、「てんぷら」→「甜不辣」、「おでん」→「黒輪」、「おやつ」→「優雅食」、「さしみ」→「沙西米」、「おとうさん」→「多桑」、「おじさん」→「歐吉桑」、「おばさん」→「歐巴桑」、「ラーメン」→「拉麵」<sup>3</sup>、「うどん」→「烏龍麵」、「たたみ」→「榻榻米」、「カラオケ」→「卡拉OK」、「ナカシ」→「那卡西」、「気持ち」→「奇蒙子」「奇様子」、「ホームラン」→「紅不讓」、「パチンコ」→「柏青哥」、「ドラえもん」→「多啦A夢」、「ノーシン」→「腦新」、「アリナミン」→「合力他命」、「ビオフェルミン」→「表飛鳴」、「ガス」→「瓦斯」、「トラック」→「拖拉庫」、「クラブ」→「俱樂部」、「～ちゃん」→「運ちゃん」<sup>4</sup>、「姉ちゃん」<sup>5</sup>、「まんが」→漫画

(2) 漢字で表記された日本語の語彙を借用し、それを台湾中国語や台湾語で発音したものの新幹線、料理、放題、番号、寿司、回転寿司、

<sup>1</sup> 「わさび」は日本語仮名のままで使用される場合も多い。

<sup>2</sup> 台湾では煎餅の漢字もそのまま使われているが、違う種類のお菓子を表す。

<sup>3</sup> 「ラーメン」本来は中国から日本の外来語として日本に入ったが、現在「逆輸入」で台湾の中に入った。

<sup>4</sup> 運転手さんのこと。

<sup>5</sup> ホテルのメイドさんや旅館の女中さんのこと。

写真、放送、刺身、蒟蒻、激辛、人気、元気、風呂、湯屋、芸能、案内、焼肉、関東煮、自慢、椎茸、羊羹、年金、油切、物語、部屋、無添加、一番搾、洋菓子、究極、乾杯、看板、蒲焼鰻、大根、達人、職人、素人、不倫、熟女、女優<sup>6</sup>、美少女、人形、空港、特売、新発売、新登場、正露丸、味噌汁、女中、女将、懐石、割烹、料亭、小物、仮面、大賞、定番、定食、越光米<sup>7</sup>、通勤、鋤焼、居酒屋、相撲、備長炭、味の素<sup>8</sup>、綺麗、照焼、銅鑼焼、茶碗蒸、宅急便、宅配、限定商品、

### (3) 日本語のまま使用されている語彙

日本語の意味や発音には関係なく、日本語がそのまま表記されているもので、本来の意味や発音に関係ない場合が多い。文字を商品の上に標示するだけである。

「おしゃれ」、「の」、「おいしい」、「美しい」、「かわいい」、「ジュース」、「うまい」割箸<sup>9</sup>、美しい優酪<sup>10</sup>

## 2.2 造語

日本語と中国語を組み合わせて新たにつくられたもの。

「御〜」:「御飯糰」「御便當」など、

「超〜」:「超完美」「超簡単」「超人氣」

「超炫」「超方便」など、

「〜入」:「3個入」「2包入」など

「一番〜」:「一番鮮」「一番味」など

「〜祭」:「桐花祭」「櫻花祭」など

<sup>6</sup> AV女優だけを示す。

<sup>7</sup> コシヒカリのこと。

<sup>8</sup>台湾では「味の素」は「味素 メへ、ムメへ」で、このような漢字だけを台湾中国語で発音する場合が多く、同じような語彙は「一番搾り」を「一番榨 一、ㄘㄞ ㄗㄩˋ」、 「照り焼き」を「照燒ㄗㄞ、ㄚㄛ」、「油切り」を「油切 ㄩㄛ、ㄑㄩㄝˋ」「茶わん蒸し」を「茶碗蒸 イㄩ、メㄞ、ㄗㄞ」などがある。

<sup>9</sup> 割り箸の包装によく漢字の「割箸」が見られるが、台湾では一般的に割り箸のことを「筷子 ㄑㄩㄝ、ㄆㄛˊ」と呼ぶ。

<sup>10</sup> ヨーグルトの商品に書かれて、食品に「美しい」を使うのが意味不明なのである。

「〜族」:「車床族」「快閃族」「草莓族」

「上班族」「股票族」など

## 2.3 意味の移行した語彙

日本語発音に中国語漢字を当てはめてあり、意味も移行しているもの。

あぶら→油→「游 ㄩㄛ、ㄛ」→台湾の苗字「游」の人に「阿不拉 ヲ、ㄨㄛ、ㄛ」というニックネームを付けられるのが多い。

ぱりぱり→「吧哩吧哩 ㄅㄞ、ㄛ、ㄛ」→おしゃれしている様子

アゲ→油揚げからとった名→「阿給 ヲ、ㄍㄞ、ㄍㄞ」→春雨を稲荷に詰めて蒸したもの。

桜桜美代子→台湾語の発音で「暇で何もすることはない」という意味を示している。

## 2.4 オノマトペ

いっばいっばい、ぎりぎり、さらさら、つぶつぶ、つるつる、つやつや、ぱらぱら、

以上のような台湾に見られる日本語語彙の中で、日本統治時代から残されている日本語語彙がある。時とともに使用しなくなった語彙もあるが、台湾の中で定着している日本語語彙も少なくはない。しかし、この点に関しては紙幅の関係上次の機会に譲ることとする。

## 4. 台湾に見られる日本語語彙に対するイメージ

以上、台湾に見られる日本語語彙について、どのような形で取り込まれているかについて分類、および、分析をしてきたが、これらの日本語の語彙が、台湾の若年層に、どのようなイメージをもたれ、どのように受容されているかについて、アンケート調査を実施した。その結果、以下のようなことが明らかになった。

①「日本語がついている商品に対してどのようなイメージを持っていますか。」の質問に「日本的だと感じる」70%、「高級感を感じる」49%、

「はやりを感じる」43%、「可愛いと感じる」47%で、「面白いと感じる」、31%「買いたくなる」59%、「商品のイメージをよくするため」60%、「商品のイメージと違う」1%、「特にないと感じる」4%、「下品だと感じる」「時代遅れだと感じる」「ださいと感じる」「安っぽい」「買いたくなくなる」の四項目が0%、という結果であった。

さまざまな商品に使用されている日本語によって、高級感が感じられ、その商品を買いたくなる、という回答が多かった。つまり、商品に日本語が標記されていることによって、「品質のよさ」を感じさせられ、いわゆる購買意欲を掻き立てられるようである。また、同時に、日本語が付いている商品は流行の先端を行っているというイメージがあり、安っぽいなどの商品イメージを持たないという意見も出ていた。

②「あなたにとって、台湾でみる日本語に対して、どのように感じますか。」の質問に「日本人に見せるために作ったもの」27%、「とてもふさわしい」17%、「特に日本語だと意識しない」36%、「違和感がない」30%、「すでに中国語化している」36%、「芸術的なものとして使われている」51%、との結果であった。

台湾では看板や歌詞、雑誌などに使用されている日本語について、とく日本語だと意識しない人が多く、日本語が台湾文化に溶け込んでいることがうかがわれる。また、芸術性<sup>11</sup>が感じられるという回答も多く、自国の言語でない文字に対して、芸術的な印象を持つ傾向があるようである。

③「どのような商品によく日本語を見ますか。」という質問には、「文房用具」59%、「食品」93%、「衣類」26%、「家具」6%、「飾り物」40%、「そ

の他電子製品や日常生活用品など」19%、との結果であった。

日本語は商品のイメージアップにつながるようで、食品に使用される場合が最も多く見られた。つまり、食品に日本語が使用されることで、その品質の安全性や美食感を消費者にあたえ、さらに、新鮮さが感じられるため、購買意欲を引き上げると思われる。また、若い人を対象とする商品に多く使用される傾向があり、文房具などにもこのような傾向が見られる。

④「どのような場面で日本語が使用されていますか。」という質問には、「商品名」90%、「指示用語」40%、「宣伝用語」59%、「スローガン」43%「励まし言葉」4%、「縁起言葉や季節用語」29%、「キャラクターの名前」56%、「意味のない日本語の仮名」26%、「商品の内容説明」54%、「その物の特色について」30%、との結果であった。

最近日本語の使用が特に目立つのは、テレビや雑誌などの宣伝である。たとえば、「さらさら」「美味しい」「一番」などで、このような日本語語彙を使用することで、商品のイメージアップを図り、商品がよく売れるようにする宣伝効果があるようだ。

また、日本から輸入されている漫画やアニメなどのキャラクターなどの名前が一般的に使われている。そして、台湾製のものであっても日本製であるかのように思わせるために、また和風というイメージを強調するために、多くの製品に日本語の名称を付けている。

このように、台湾各地で見られる日本語であるが、これらの語彙の多くには、間違いや誤用も多くみられる。

調査によるとカナで表記するものが間違いやすい。「ツ」→「シ」、「ン」→「ソ」、「っ」→「つ」、「ヨ」→「ヨ」などの間違いが多く、「しゅぶしゅぶ」→「しゅぶしゅぶ」や「パチンコ」

<sup>11</sup> 特に日本語を意識せず、その字体など視覚的に芸術的なものとして商品や広告などで使われる。

→「パチソコ」、「いらっしゃい」→「いらつしゃい」などと表記されているのがよく見られる。そのほかに前述したように、台湾では「の」を中国語「的」の代わりに、過剰使用と言えるほど使用されている。今回の調査で収集してきたデータの中でも、看板や商品名などのうち40%以上を占めていた。

これらの日本語語彙が間違っ  
て使われるときも多いが多くの人は読めない  
ので別に気にしないという意見であ  
った。

#### 4. おわりに

現在の台湾では、看板や品物のパッケージなどに英語や日本語が多く見られるようになったが、特に日本語が多く使われている。これは、台湾人にとって、漢字混じりの日本語は他の外国語と比べ、比較的容易に理解できることがあげられる。また、日本の経済発展が著しいなか、日台間の各種交流が頻繁におこなわれていることも大きな要因であろう。さらに、1993年までの日本に関する出版物、マルチメディアなどの情報の厳しい制限が解除され、ケーブルテレビが普及し、自由に日本の番組が見られるようになったこともその原因の一つと言えよう。特に台湾の若い世代は、日本語を身近に感じ、欧米に匹敵する情報発信地として日本からの情報をいち早く取り入れようとしている。

今回の調査では、台湾の若年層は日本語に対してよいイメージを持っており、日本語語彙が台湾の中で非常に受容され易いという結果が出た。

#### 参考文献

- 王敏東・陳錦怡(1992)「與日語相應的流行語-台灣的情形」『語文建設通訊』第71期 pp. 43-49
- 黄迎春・新居田純野・上原聡(2006) 言語処理

学会第12回年次大会発表論文集

pp. 192-195

佐藤圭司(1997)「《普通話》と《台湾国語》の対照研究-《台湾国語》にひそむ日本語からの借用語彙を中心に-」東呉大学日本文学系修士論文

鍾季儒(2003)「台湾の中国語における新外来語-日系外来語を中心に」名古屋大学大学院文学研究科博士論文

陳麗君(2004)「台湾閩南語における日本語からの借用語」『南台応用日語学報』第4号 pp. 73-90

張良澤(1983)「台湾に残った日本語——“国語”教育より論ずる」『中国語研究』22号 pp. 1-36

趙順文(2004)「日製台語再探索」『台灣羅馬字國際研討會論文集』pp. 6. 1-6

村上嘉英(1979)「閩南語における日本語語彙の受容様態」『天理大学学報』119号 pp. 27-43